

- 問1 岡山県から四国側への自動車による到達圏域の変化を調べた調査において、1985年時点と比較して、2011年時点では四国側のより広範囲の地域へ短時間で到達できるようになっています。このような変化が生じた歴史的背景として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 鹿児島県公立入試 類似)
1. 1988年に青函トンネルが開通し、全国的な高速道路網の整備が完了したため。
 2. 瀬戸内海沿岸の埋め立てが進み、四国との間の海上の距離が物理的に短くなったため。
 3. 1998年に明石海峡大橋が開通し、徳島県から岡山県への移動が容易になったため。
 4. 1988年に瀬戸大橋が開通し、本州と四国が道路と鉄道によって直結されたため。
- 問2 1998年に明石海峡大橋が開通したことで、徳島県と関西方面を結ぶ交通状況には大きな変化が見られました。この変化の内容とその背景にある理由として、最も適切な記述を選びなさい。 (2024年 埼玉県公立入試 類似)
1. 瀬戸内海での環境規制が強化されたことにより、大型旅客船の運航が制限されたため、フェリーの輸送人数が大幅に減少した。
 2. 高速道路網の整備により、自動車や高速バスへの転換が進んだことで、それまで主要な交通手段であったフェリーや旅客船の輸送人数が大幅に減少した。
 3. 鉄道の複線化と高速化が進んだことで、通勤・通学客の利用が鉄道に集中し、フェリーや旅客船の輸送人数が大幅に減少した。
 4. 航空路線の拡充と運賃の低価格化が進んだことで、遠距離移動の利便性が高まり、短距離のフェリー輸送人数が大幅に減少した。
- 問3 愛媛県南西部の坂下津から戎ヶ鼻にかけてのように、リアス海岸が広がる地域では海岸のすぐ近くまで山が迫っています。このような地形的制約がある中で、この地域の斜面で広く行われている農業の特色について述べたものはどれですか。 (2020年 千葉県公立入試 類似)
1. 土砂が堆積してきた平坦な土地を利用して、大規模な機械化による小麦の栽培が行われている。
 2. 冷涼な気候を活かし、山の斜面を牧草地として利用した乳牛の放牧が行われている。
 3. 海岸沿いに広がる砂丘を利用して、スプリンクラーを用いたらっきょうやスイカの栽培が行われている。
 4. 日当たりの良い斜面を段々畑として整備し、みかんなどのかんきつ類の栽培が行われている。
- 問4 香川県では古くから数多くの「ため池」が作られ、水不足への対策が講じられてきましたが、昭和時代には吉野川から水を引く大規模な「香川用水」が整備されました。このように新たな水源を確保する必要があった理由として、地域の気候や環境の背景を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2023年 北海道公立入試 類似)
1. 吉野川の下流域で頻発する洪水を防ぐため、水を讃岐平野側に放流して調整する必要があったため。
 2. 瀬戸内式の気候で降水量が少なく、ため池だけでは近年の需要増大や深刻な干ばつに対応しきれなかったため。
 3. 高度経済成長期にすべてのため池が埋め立てられ、工業用地や住宅地へと転用されてしまったため。
 4. 香川県内の地下水から塩分が検出されるようになり、農業や生活に利用できなくなったため。
- 問5 1980年から2019年までの島根県における観光客数の推移を、分析したとき、統計上見られる特徴として正しい説明はどれですか。 (2026年 島根県公立入試 類似)
1. 観光客総数の増加は、主に県内居住者が県内各地を頻繁に訪れるようになったことで維持されている
 2. 世界遺産登録などの大きな行事がある際、県外客が大幅に増えることで総数が押し上げられている
 3. 高速道路が開通した年のみ一時的に観光客が増加するが、翌年には行事の有無に関わらず元の水準に戻っている
 4. 県外からの観光客は長年減少傾向にあるが、外国人観光客の急増によって総数が過去最高を更新し続けている
- 問6 山口県的美祢市付近には、日本を代表するカルスト地形である秋吉台が広がっている。このような独特の景観が形成された理由と、その後の利用について述べた文として適切なものはどれか。 (2024年 沖縄県公立入試 類似)
1. サンゴ礁などが堆積してきた石灰岩の台地が雨水で浸食されて形成され、現在はセメントの原料として石灰石の採掘も行われている。
 2. 激しい火山活動によって噴出した溶岩が平坦に固まって形成され、現在はその広大な土地を活かして牧畜が行われている。
 3. 河川が運んできた土砂が長い年月をかけて積もって形成され、現在はその水はけの良さを活かした果樹園が広がっている。
 4. 海底が急激に隆起してきた砂岩の地層が波の浸食を受けて形成され、現在は国立公園として観光利用のみに制限されている。
- 問7 岡山県やくらしき市、山口県周南市などの瀬戸内海沿岸部には、多くの石油化学コンビナートが立地しています。これらの工場群が、内陸部ではなくあえて臨海部に集中している理由として、最も適切な説明はどれですか。 (2018年 沖縄県公立入試 類似)
1. 海上交通の便が良く、港湾施設を利用して原料の輸入や製品の輸送を効率的に行えるから
 2. 主要な消費地である東京や大阪などの大都市に隣接しており、高速道路網による陸上輸送に有利だから
 3. 周辺の山地で採掘される石炭や鉄鉱石を、短い距離で工場へ運び込むことができるから
 4. 製品の冷却に大量の淡水が必要なため、大きな河川の河口付近に工場を建てる必要があるから
- 問8 四国地方の愛媛県における農業産出額の構成には、他の都道府県と比べて際立った特徴があります。統計資料において、産出額全体の約3割を占め、愛媛県が全国有数の産地として知られている品目はどれですか。 (2020年 岩手県公立入試 類似)
1. 畜産
 2. 果実
 3. 野菜
 4. 米
- 問9 山口県が属する瀬戸内工業地域において、化学工業をはじめとする重化学工業が発達した背景として、地理的条件をふまえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2019年 三重県公立入試 類似)
1. 波が穏やかな瀬戸内海の沿岸部を埋め立て、大型船による原料の輸入や製品の輸送に便利なコンビナートが建設されたため。
 2. 京阪神・中京・関東の三大都市圏のちょうど中心に位置し、高速道路網を利用した部品の組み立てや加工を行う内陸工業が発達したため。
 3. 広大な平野を活用した大規模な機械化農業との兼業が容易であり、農閑期の労働力を活用した繊維工業から発展したため。
 4. 内陸部の険しい地形を利用した水力発電によって、安価で大量の電力を得ることが可能になり、アルミニウム工業が発達したため。
- 問10 徳島県における地鶏の出荷量を1994年から2008年までの期間で確認すると、1998年を境に出荷量が急増しています。また、同じ1998年には「神戸・淡路・鳴門自動車道」が開通しています。この道路の開通が地鶏の出荷増に大きく寄与したことを客観的に証明するために、出荷量のデータに加えて確認すべき指標として最も適切なものはどれですか。 (2018年 広島県公立入試 類似)
1. 1994年以前の長期的な地鶏出荷量の変化
 2. 京阪神市場へ向かう地鶏の具体的な出荷経路の変化
 3. 道路の開通前後における地鶏の卸売価格の変動
 4. 徳島県内における地鶏の飼育農家数の推移
- 問11 日本の都道府県の統計において、四国地方に位置するある県は、北陸地方の富山県と人口規模が近いことから比較対象として提示されることがあります。この「日本で最も面積が小さい」という特徴も併せ持つ県はどこですか。 (2023年 富山県公立入試 類似)
1. 奈良県
 2. 香川県
 3. 滋賀県
 4. 佐賀県

答え合わせ・解説

問1	答え 4 1988年に瀬戸大橋が開通し、本州と四国が道路と鉄道によって直結されたため。	岡山県から四国側への自動車の移動時間が大幅に短縮されたのは、1988年の瀬戸大橋開通が最大の理由です。それ以前はフェリーによる海上輸送が中心であり、天候の影響を受けやすく時間もかかっていましたが、陸路（橋）で結ばれたことで24時間の安定した往来が可能となり、生活圈や経済圏が拡大しました。明石海峡大橋は兵庫県（神戸市）と淡路島を結ぶルートであるため、岡山県からの直接的な到達圏拡大の主因とは言えません。
問2	答え 2 高速道路網の整備により、自動車や高速バスへの転換が進んだことで、それまで主要な交通手段であったフェリーや旅客船の輸送人数が大幅に減少した。	1998年の明石海峡大橋の開通は、四国と本州を陸路で直結させる画期的な出来事でした。これにより、それまで主流だったフェリーや旅客船による移動が、自家用車や高速バスによる移動へと劇的にシフトしました。1997年まで年間200万人以上で安定していたフェリー等の輸送人数が、開通の年を境に急落し、2000年代には50万人を下回るなど、交通体系の大きな変化（交通転換）を象徴する事例となっています。
問3	答え 4 日当たりの良い斜面を段々畑として整備し、みかんなどのかんきつ類の栽培が行われている。	リアス海岸付近は平地が非常に少ないため、人々は山が海に落ち込む急斜面を切り拓いて段々畑を作り、土地を有効活用してきました。温暖な気候に加え、海からの反射光や水はけの良さが果樹栽培に適しているため、みかんを中心としたかんきつ類の栽培（果樹園）が盛んです。地形図においても、海岸線から山側にかけて果樹園の地図記号が密集している様子が見て取れます。
問4	答え 2 瀬戸内式の気候で降水量が少なく、ため池だけでは近年の需要増大や深刻な干ばつに対応しきれなかったため。	香川県（讃岐平野）は、南側に四国山地、北側に中国山地があるため、湿った空気が遮られやすく、年間を通じて降水量が少ないのが特徴です。伝統的なため池による貯水だけでは、人口増加に伴う生活用水の需要や、長期間雨が降らない大規模な干ばつを乗り越えることが困難であったため、山を越えて他県の河川から安定的に送水する導水路が建設されました。
問5	答え 2 世界遺産登録などの大きな行事がある際、県外客が大幅に増えることで総数が押し上げられている	島根県の観光動態を分析すると、県内居住者による観光客数は比較的安定した推移を示しています。これに対し、石見銀山の世界遺産登録や出雲大社の遷宮といった大規模な社会的トピックがある時期には、県外からの観光客が爆発的に増加しており、これが観光客総数のグラフにおける急激なピークを形成する主因となっています。これは地域の文化遺産が、広域からの集客力を高める重要な資源であることを示しています。
問6	答え 1 サンゴ礁などが堆積してできた石灰岩の台地が雨水で浸食されて形成され、現在はセメントの原料として石灰石の採掘も行われている。	秋吉台のようなカルスト地形は、遠い昔のサンゴ礁などが石灰岩となり、それが地殻変動で陸地になったあと、二酸化炭素を含んだ雨水などによって溶かされることで作られました。この石灰岩は純度が高いため、建築材料や化学製品の原料となるセメントの重要な資源として、周辺では大規模な採掘事業が行われています。
問7	答え 1 海上交通の便が良く、港湾施設を利用して原料の輸入や製品の輸送を効率的に行えるから	瀬戸内工業地域は、波が穏やかな瀬戸内海の海上交通を活用できる利点があります。石油化学工業は、原料となる原油を海外からの輸入に頼っているため、大型船舶が直接接岸できる港湾施設を備えた臨海部が立地に最適です。このように、原料の受け入れから製品の出荷までを一貫して効率的に行うため、海に面した場所に工場が集まっています。
問8	答え 2 果実	愛媛県は瀬戸内海の温暖な気候や、水はけの良い傾斜地といった自然条件を活かしたかんきつ類の栽培が非常に盛んです。そのため、農業産出額の品目別割合を見ると、全国的に高い割合を占めやすい米や野菜ではなく、果実が約30%以上に達するという、全国的にも珍しい構成になっています。
問9	答え 1 波が穏やかな瀬戸内海の沿岸部を埋め立て、大型船による原料の輸入や製品の輸送に便利なコンビナートが建設されたため。	瀬戸内海沿岸は、遠浅の海が広がっていたため埋め立てが容易であり、さらに波が穏やかで水深を確保しやすかったことから、大型船舶が接岸できる良港に恵まれていました。この立地条件を活かして、海外からの石油などの資源を輸入し、精製・加工を行う石油化学コンビナートや製鉄所が集中して建設されました。
問10	答え 2 京阪神市場へ向かう地鶏の具体的な出荷経路の変化	特定のインフラ整備の効果を証明するためには、単に同時期に生産量が増えたという相関関係を示すだけでは不十分です。実際にその道路を利用して消費地（この場合は京阪神市場）へ運ばれるようになったという「出荷経路」の裏付けをとることで、道路開通が直接的な要因であることを論理的に説明できます。
問11	答え 2 香川県	香川県は四国地方の北部に位置する県で、人口規模が北陸地方の富山県と近似しています。地理の学習において、面積が最小である香川県と、人口規模は近いが面積や産業構造が異なる他地域の県を比較することで、地域の特色を分析する際によく用いられます。